

にぎやかで楽しい 小屋浦の祭り

小屋浦小学校 六年
丸目 煌太

コロナが明けて、久しぶりの本格的な開催となった秋祭り。ぼくは、獅子太鼓の担当になり、夜の練習も毎日頑張りました。そして祭り本番では、大勢の人の前で、練習の成果を発揮することができました。ぼくだけではなく、子供も大人もはりきっていて、とても楽しかったです。ぼくは、そんな坂町の文化を、これからも残していきたいと思います。

と心待ちにしていました。去年の祭りに参加した人たちからは、「本当に面白かった。」「来年もあるかな。」「マジで鬼怖い。」という声がたくさん聞けて、とてもうれしかったです。

ぼくは、こんなに楽しい行事だからこそ、これからも続けてほしいと思います。もしもなくなってしまうたら、コロナの時のように、にぎやかで楽しい小屋浦の町も、全力で逃げ回っている人の姿も見ることができなくなってしまう。そこで、ぼくは、昔から続いてきた文化をこれからも残していくために、自分にできることを二つ考えました。

す。祭りは、町を盛り上げたり、みんなを喜ばせたりするためにあると思います。ぼくも、去年は祭りを盛り上げる立場で参加してみても、やりがいや達成感を感じることができました。また、母は、「あなたのお兄ちゃんも、参加できなかったから、獅子太鼓を頑張ってくれてうれしかったよ。」と、喜んでくれました。

二つ目は、周りの人に参加を呼びかけることです。祭りが大好きなぼくが、「小屋浦には楽しい祭りがあるよ。」「小屋浦の祭りは、みんながわいわいしていて、とても怖い鬼も出てくるよ。」などと伝えれば、小屋浦のことをよく知らない人でも、興味をもってくれると思います。また、地域であまり祭りに参加していない人にも呼びかけることによって、行事に参加する人が増え、さらに、その人がまた呼びか

けることによって、どんどんと小屋浦に来る人が増えると思います。小屋浦には、足腰が弱くて、外に出る体力が少ないお年寄りの方も多いと思います。しかし、ぼくたちのような若い世代が、祭りの様子や楽しさを伝えることで、町全体が元気になると思います。

総合的な学習の時間で、お世話になっていて、小屋浦防災士の木村さんが、このような話をしてくれました。「防災で一番大事なことは、地域の人たちとして、日頃からあいさつをしたり、祭りなどの行事に参加したりすること、お互いの顔や名前を覚えて仲よくなります。もしも災害が起きたとしても、みなさんがお年寄りに声をかければ、一緒に避難してくれるはずですよ。」

ことができました。ぼくは、今年の秋祭りもとても楽しみにしています。この気持ちをたくさんの人に伝えて、坂町や他の町からたくさんの人に目に來てほしいと願っています。そして、小屋浦の町の大切な文化を受け継いで、小屋浦から元気を届けていきたいです。

奇跡をどう 生み出していくか

坂中学校 一年
仲野 結菜

私たちが毎日、何不由なく幸せな生活を送ることができているのは、奇跡だと思っています。その奇跡が続くことが平和ということだと考えています。今、世の中では、奇跡が続いているのでしょうか。そもそも平和とは何なのでしょう。私がそう考えるようになったのは、校外学習で平和について多くのことを学び、考えたからです。

対話とSNS

坂中学校 二年
時川 紗幸

顔をみて、目を合わせ、直接話をする。このことがどれだけ大切で、どんなに気持ちを伝えやすいか知っていますか？私は、直接話をする大切さを理解し、そのことを忘れないようにすべきだと考えます。

今、私達はとても便利な世の中にいます。その中でも、大きな影響を与えているのは、インターネットやSNS、メールなどです。これらは、正しく使えばとても便利で楽しいものになります。しかし、使い道を少しの間違えると、トラブルになる可能性があります。友達でも、インターネットやSNS上でのやりとりは、相手の顔を見ることができません。そのため、相手は本当は何を思っているのか、どんな感情なのか分かりませ

ん。つまり、インターネットやSNS上では、自分や相手の気持ちが正しく伝わらないことがあるのです。しかし、直接話をする、その問題は起りづらく、信頼関係が築きやすいという良さがあると私は思っています。さらに、直接話をする際には、メールでは伝わらない楽しさがあると思います。お互いの笑った顔を見ると、楽しい気持ちになったり、安心したりすると思います。これは、メールの文字では分からない、顔を見て話すというこの一番の良さだと思っています。この便利な中でも、直接話することの楽しさや喜び、気持ちを伝えるために一番良い方法だということ、忘れてはいけないと思います。

私はいった良さがあるとまだ分かっていなかった頃にトラブルになったことがありました。メールのみで話を

して、陰口を言われた

六年生の校外学習で、平和記念公園、平和記念資料館、本川小学校に行きました。私はそこで戦争の恐ろしさ、悲惨さについて学びました。校外学習で学んだこと、考えたことを家で家族に話してみました。すると、私の母の祖父は、第二次世界大戦に動員され、フィリピンに行ったことを母から聞くことができませんでした。空からの攻撃から走って逃げたこと。仲間が次々と死んでいく姿を見て、自分も死を覚悟したこと。国の命令に従うしかなかった時代、幸いにも生きて日本に帰ってこることができたこと。話を聞く中で、戦争と平和というものを身近なものとして考えることができませんでした。また、今の平和があるのは、多くの悲しみに直面しながらも、幸せを願い、希望をもって一生懸命生きた人々の努力があったからだといふことも分かりました。そして、私がここにいるのは、平和な世の中にな

り、命のバトンが繋がったからだとということに気づきました。平和とは、命のバトンが繋がることなのかもしれません。現在でも、世界では戦争が起きています。私の知る限り、一つは、ロシア軍とウクライナ軍の戦争です。この戦争は、約二年間続いています。もう一つは、イスラエルとハマスの対立です。連日、ニュースでも報じられていきます。どちらの争いも私にとっては、正しく理解することが難しいものですが、民間人を巻き込んで人を傷つけていることに変わりはありません。たくさんさんの命を奪ってしまふ暴力の先に、平和は生まれるのでしょうか。そこでは、命が繋がっていくのでしょうか。

私はい、この世界から戦争がなくなることを強く望んでいます。でも、小学六年生の私にできることは何か。それは、自分の本当の気持ちと向き合うことです。人に合わ